

彫刻学科

学科理念・教育目標

Sculpture（彫刻の表現）は他の芸術と比較して、未知の世界をこの現実の世界に出現させることができる領域です。この表現は「触覚」という人間の根源的な感覚をベースに持つ、極めて原始的なものでありながら、人間の歴史とともに生み出してきた様々な素材や技術と結びついて独自の表現領域をつくり出してきました。別の言い方をすれば「ものを存在させる表現」と言う事ができるでしょう。誤解されがちですが、表現における「触覚」とは単に皮膚で触れる感覚を言うものではありません。むしろ触れないで感じる事。外側から見るのではなく、総ての感覚を密接に関連させてものの「内側」からあらゆる点において知覚することを意味します。そのような表現を基礎とする彫刻は、新しいリアリティを見つける身体的な思考であるとともに、世界と関わる具体的な技術であると言えます。そしてそれは良く知られた彫刻の領域ばかりでなく、まったく新たな芸術領域の創造の可能性をも示唆しています。彫刻の歴史はその概念を押し広げ、様々な表現の幅がりをつくり出してきました。私たちの学科はその中で、同時代の美術とは何かを問い続けること、素材と対峙しながら美術の歴史を見つめ直すことを行き来しながら制作の環境を作ろうとしています。その環境こそがカリキュラムの基本として位置づけられるものでしょう。

彫刻学科は工房を駆使し、経験から理論を読みあげてゆく方向性を持つ学科です。他に類を見ない設備とスペースを持つ個性的な工房を制作の背景として、表現についての思考力を深め理論的にステップアップしてゆくカリキュラムと、工房での専門的な指導が交差する教育環境を核として、4年間を通して自立して制作研究のできる表現者の育成に取り組んでいます。表現者としての自覚をいかに持つかを考えてゆくことは、将来作家活動へ必ずしも向かわなくても、美術と関わる長期的な視点を持ち、社会性を獲得する上で決して無駄なことではないでしょう。

造形学部のディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

- DP1 専門的な知識を理解し深めることができる。
- DP2 専門分野の基盤となる文化や諸科学について総合的に理解している。
- DP3 制作・研究を深め広げる技能を身につけている。
- DP4 他者に伝える表現能力および他者とともに考える対話能力を身につけている。
- DP5 批判的思考を働かせ、課題や主題を自主的に設定することができる。
- DP6 論理的思考・創造的思考を働かせ、独創的な課題解決の判断や構想ができる。
- DP7 制作・研究に幅広い関心と高い意欲を持ち、社会のなかで主体的に取り組むことができる。

科目区分		1年次	2年次	3年次	4年次
文化総合科目 I類		文化総合I類カリキュラムマップ			
文化総合科目 II類		文化総合II類カリキュラムマップ			
造形総合科目	I類必修	造形総合・絵画 I 造形総合・デザイン I			
	I類選択必修	造形総合・絵画 II 造形総合・彫刻 II 造形総合・デザイン II 造形総合・工芸 II 造形総合・メディア表現 II			
	II類	造形総合II類カリキュラムマップ			
学科別科目	I類必修	基礎造形 彫刻A 彫刻B	彫刻E 彫刻F 彫刻G	彫刻H 彫刻I 彫刻J 彫刻K 彫刻L	彫刻M 彫刻N
	I類選択必修	造形基礎・選択 日本画 造形基礎・選択 油絵 造形基礎・選択 版画 造形基礎・選択 彫刻 デザイン基礎(映像メディア表現を含む)	彫刻C 彫刻D デザイン II 工芸制作 I		
	II類選択必修	THE VIRTUAL FORM I THE VIRTUAL FORM II Art&Communication I Art&Communication II		表現演習 I 表現演習 II Approaches to 3D Form I Approaches to 3D Form II	
		Art&Communication III - 1 Art&Communication III - 2			
卒業制作					卒業制作